明らかになったことと来年度の展望

生徒エージェンシーの発揮を目指すなかで見えてきたこと

本校の教員も子供たち自身も附属小学校に関わる人々の幸せを願って，本研究は出発した。自分も周りも幸せに向かうためには，社会を開く力としてこれまで研究してきた探究力と省察性に加え，より良い社会を共に作ろうとする力が重要になると考え，生徒エージェンシーを研究の軸に据えることにした。そして，各教科の学びの中に潜んでいる生徒エージェンシーにつながる学びをカリキュラムとして意識化でき，どのような学びを展開できれば生徒エージェンシーの発揮につながる素地となる力を身に付けることができるかを明らかにしていくことを目指してきた。その過程で見えてきたことについて述べる。

1．今年度の取り組みから見えてきたこと

①　生徒エージェンシーと各教科の学びのつながり

生徒エージェンシーを意識した学びとは，各教科の本質にせまる学びを行うことであり，各教科で身に付けた力が生徒エージェンシーの発揮の場面における素地となる力になる。

本校職員で，生徒エージェンシーと各教科のつながりが見えている職員は，生徒エージェンシーを各教科の中で見出すものでなく，素地となる力を身に付けることが生徒エージェンシーの発揮につながるという認識をもって授業を構想していた。

一方で，エージェンシーと各教科の学びのつながりが見えないと感じた職員がいた。その職員は各教科の学びの中で生徒エージェンシーにつながる力を身に付けないといけないと感じていたため，そのように感じたのだと推測する。

②　要素の捉えちがい

生徒エージェンシーの発揮に必要な要素の解釈に誤りがあった。本来2つである要素を3つに分割し，共有してしまった。また，生徒エージェンシーを発揮する場面において必要な要素が，一人一人にカスタマイズされた学習環境としっかりしとした基礎力である。しかし，今年度は一人一人にカスタマイズされた学習環境を設定したり，しっかりと基礎力を付けたりすることを授業の中で取り入れることを目的としてしまい，発揮の場面ではなく各教科の中で必要な要素として研究を進めていた。そのことにより，各教科の学びの中で生徒エージェンシーを発揮しなければいけないという誤った思い込みを促してしまった。

2．来年度の展望

今年度見えてきたことをもとに，来年度も生徒エージェンシーの発揮につながる素地となる力を身に付ける学びを各教科から明らかにしていく。そのために，2つの取り組みを行う。1つ目は，OECD の定義をもとに，本校における生徒エージェンシーの発揮の姿を設定する。2つ目は，生徒エージェンシーの発揮につながる素地となる学びに有効なしかけを探っていきたい。